

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

| 令和3年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1- | | |
|----------------------------|---|--|
| 重点項目 | 学習活動 | |
| 重点課題 | 基礎学力の定着と授業改善の推進 | |
| 現 状 | ・これまでの取り組みを通して、基礎学力の全体の底上げという点では一定の成果がでてきている。今後はそれに加え、生徒個々の目標や能力に合った基礎学力を身につけさせていくことが課題である。 ・家庭学習が不足している生徒が多くみられる。授業の内容を理解し定着させたり、目指す資格・検定の取得を実現させるために、学習意欲をもって日常的に家庭学習に取り組む習慣を育成することが必要である。 | |
| | ・「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して、生徒の能動的な学びを実現し、生涯にわたり自己の目標達成に向け努力する姿勢とその基盤となる学力を育成することが求められている。各教科・科目の担当者の共通理解のもと、そのような学びを実現するための指導方法の工夫・改善を進めていく必要がある。 | |
| 達成目標 | 基礎力診断テストの実施と分析 | 公開授業の実施と授業見学・互見授業 |
| | ・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・基礎学力(基礎力診断テストで判定)が向上した生徒の割合を60%以上にする。 | ・担当授業を年1回以上(1, 2学期間)公開する。 ・他の教員の授業見学を年1回以上行う。 |
| 方 策 | ・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に着ける。 ・朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 ・教育クラウドを活用した学習支援の検討。 | ・互見授業を実施し、自身の授業改善に役立てる。 ・互見授業の実施率向上のために各学期に互見授業週間を設け意識向上を図る。 ・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。 |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| 令和3年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2- | | |
|----------------------------|--|--|
| 重点項目 | 学校生活 | |
| 重点課題 | モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成 | |
| 現 状 | ・SNSには、その普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。一昨年度のネットパトロール報告件数は11件で、昨年度は3件であった。携帯電話使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。 | |
| | ・交通事故件数は、一昨年度は3件であったが、昨年度は8件発生した。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からないし、加害者になることも限らない。常に、命の大切さのもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。 | |
| 達成目標 | ネットパトロールの報告件数 | 交通事故件数 |
| | ・年間報告件数 3件以下 | ・発生件数(年間 3件)以下 |
| 方 策 | ・集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導 | ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・事故発生時の状況や場所の教室掲示 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導 |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| | | |
|------|--|--|
| 重点項目 | 進路支援 | |
| 重点課題 | 生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学や選考会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約127名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成28年度9人(116/125)、29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)、令和元年度3人(132/135)、令和2年度0人(111/111)であった。 |
| 達成目標 | 3学年生徒の進路指導室延べ利用回数 | 就職希望者第一次選考での不合格者数(民間) |
| | 1000回以上(一人平均3.8回以上) | 新型コロナウイルス影響による求人縮小の影響を考え 4人未満 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。 |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| | | |
|------|--|----------|
| 重点項目 | 特別活動 | |
| 重点課題 | 学校行事および部活動の充実 | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。また、コロナ禍で各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。 ・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率(生徒会を含む)は98%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は約34名(内8名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。 | |
| 達成目標 | 主たる行事において満足と回答する生徒の割合 | 部活動変更生徒数 |
| | 85%以上 | 40名以内 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努めて新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえての活動、および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。 ・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 | |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| | | |
|------|--|--------|
| 重点項目 | PTA活動の活性化 | |
| 重点課題 | PTA役員会とPTA行事の活性化 | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会では、行事等について積極的な議論が行われている。 ・今年度より、役員会のメンバーを会長、副会長、監査、各委員会副委員長と縮小してより活発な議論の場とする。 ・PTA各行事への参加者は少ない現状である。 ・各委員長、副委員長が中心となり各委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。 | |
| 達成目標 | PTA行事への参加者数 | 総会の出席者 |
| | 前年度より10%増 | 出席率50% |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりホームページにPTAページを開設。 ・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。 ・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。 ・各役員から行事参加への働きかけを積極的に行う。 ・今年度より、新たに各委員会に副委員長が作られ、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。 | |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)